

現役学生が感じた、コミュニティ福祉学部の「歩き方」

鶴田 真菜（コミュニティ政策学科4年）

このエッセイはこの学部で5年間在籍した中での実体験から、これからコミュニティ福祉学部で学ぶ皆さんに向けて学びのヒントになればと一学生の意見として執筆したものです。既に専攻を持って学ばれている方やOB・OGの皆様、教員の皆様には物足りない文章かと思いますがご了承ください。また学術的なコミュニティ福祉学の定義については坂田周一監修、浅井春夫・三本松政之・濁川孝志編『新・コミュニティ福祉学入門』を参照していただけたらと思います。

さて、コミュニティ福祉学部の入り口に立つ皆様は「コミュニティ福祉」という言葉を聞いて何を連想するでしょうか。コミュニティというからには人に関係ある学部だとか、福祉というからには介護や高齢化問題について扱う学部、中にはボランティアというイメージを抱く方もいるかもしれません。

私も入学した当初ピンときていなかったのですが3年次で大学内の復興支援プログラムに参加した際、ある答えに辿り着きました。私が初めて福島県のいわき市を訪れた時、既に東日本大震災から5年の月日が経っていましたが、立入りが制限されている区域では当時の家屋が倒壊したままだったものの災害公営住宅の周りにはほぼ更地になっている状態でした。その状態を見て、私はこのまま施設の整備がすすめば復興が進むのではないかと考えました。しかし現地の災害公営住宅に住む自治会長にお話を伺ったとき、「現地に若者が戻ってこない」という現状や「もともと住んでいた人と新しく引っ越してきた人の軋轢が埋まっていない」といった「人」に根ざした問題が未だに解決していないことを知りました。

この経験を踏まえて私たちはそこに住まう「人」に対して何ができるのか。コミュニティ福祉学部とは社会で起こるあらゆる問題について「人」および人が集まって織りなす「コミュニティ」の視点からアプローチする学部だということに、在学して目で見て触れて行き着きました。

なんとなくコミュニティ福祉学部のイメージは掴めたでしょうか。次に私がコミュニティ福祉学部でおすすめしたい3つの学び方についてお話します。ここで挙げる例は全て自分がコミュニティ福祉学部の授業を履修した際に学んだことです。

①「立場」で考えてみる…例えば私は「行政」の視点に立ち、まちの活性化につ

いて考えました。企業ではなく自治体だからこそ投資しなければならないことは何か、その中でもNPOや民間企業に委託したほうが良いことは何か、相手となる市民の意見をどのように反映させるのか、「立場」を踏まえることで社会の構造が見えてきやすくなります。実際にゼミの中で自治体だからこそ投資しなければならないことに交通インフラを選び、NPOなどや民間企業にパーキングエリアでの出店を委託し、地元に住む方に現地インタビューすることで意見を反映し、行政の立場で京田辺市の政策を考えたことでまち活性化の課題と意義について実感を持つことができました。またコミュニティ福祉学部では実に多様な立場に根ざした研究ができます。自治体だけでなく一市民、企業、NPO/NGO、発展途上国の住民など。最初は興味を持った「立場」を一つ選んでその相関関係から社会を捉えてみることをおすすめします。

②「分野・学問」で考えてみる…奨学金破産の問題を例に解決策について考えてみましょう。まず奨学金を借りざるを得なくなっている原因に親世代の所得減が挙げられ、労働・雇用問題といった社会的アプローチが必要になります。奨学金を借りる学生はアルバイトと両立してなお困窮している状態である場合が多く、生活費を含めた経済的支援が必要になってきます。さらに両立が上手くいかず単位を落として奨学金を止められてしまった際、親などに相談できずに孤立してしまうケースがあるため、心理的ケアの側面も見逃すことができません。このようにコミュニティ福祉学部で扱う問題の「人」に対しての解決策には多角的な学問からのアプローチが不可欠です。

③「関連している社会問題」はないか考えてみる…例えば働く世代のごみマンシオン問題を考える際に、単純に考えると「単に物を片付けられない人が増えている」ということなのかもしれません。しかしその背景には働き世代の孤立化や看護師・先生といった感情労働によってストレス過多になっているという問題が隠れているのです。このように一つの問題を取り上げても、いくつかの社会問題が連結しているということが往々にしてあります。

これまで3つの視点での学び方を紹介してきました。最後に私がコミュニティ福祉学において最も大事ではないかということについてお話しします。それは大学で学んだことを自分なりに「実践」することです。つまり講義で学んだことに対して自分なりに問いを持ち、現場に行き答え探しをする姿勢です。コミュニティ福祉学部で扱われる問題は、現在進行形で明確な答えがないことも多いです。また大学の講義で「こういった事象が存在している」と知っていてもいざ現場に行き触れてみると自分の中で新たに見えてくる課題もあります。実践の場として学部主催の復興支援プログラムに参加したり、コミュニティ福祉学部の教授がセンター長を務める立教サービスマスターリングを履修してみると理解が深まりま

す。

最後にコミュニティ福祉学というのは立教が初めて生み出した学問領域であり、だからこそ私たち学生が主体的に切り拓くことができる学問だと思っています。ぜひ自分なりに問いを見つけ、あなたにとっての「コミュニティ福祉」とはなにか探してみてください。